

日本側メンバー プロフィール

・毛受敏浩(めんじゅ・としひろ、事業責任者)

：(公財)日本国際交流センター、執行理事、チーフ・プログラム・オフィサー

兵庫県庁で10年間の勤務の後、1988年より日本国際交流センターに勤務。草の根の国際交流を中心に、移民問題、知的交流を含め幅広い分野を担当。慶応大学、静岡文芸大学等で非常勤講師を歴任。現在、総務大臣自治体国際交流表彰選考委員、新宿区多文化共生まちづくり会議会長等を務める。

・李惠珍(イ・ヘジン、日本側代表、企画統括)

：(公財)日本国際交流センター シニア・プログラム・オフィサー

韓国・ソウル出身。2013年に一橋大学大学院社会学研究科で博士号(社会学)を取得。一橋大学、お茶の水女子大学のリサーチ・フェローを経て2014年11月より現職。移民政策、労働市場をテーマに研究活動に従事しながら、移住当事者として移住者支援活動にも携わっている。2014年4月より法政大学比較経済研究所兼任研究員も務める。

・Bhupal Man SHRESTHA (シュレスタ・ブパール・マン、ネパール出身)

：エベレスト・インターナショナル・スルール・ジャパン理事長

2003年に交換留学生として来日。創価大学経済学研究科で博士号(経済学)を取得。在日ネパール人向けのネパール語新聞を発行する株式会社GMTインターナショナルを設立。2012年にネパール政府の認可を受けたネパール人学校「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン」を設立。東京都多文化共生推進委員会委員。

・Marip Seng Bu (マリップ・センブ、ミャンマー出身)

：NPO法人PEACE理事長

在日カチンコミュニティ(2005年)や難民連携委員会(2008年)を組織。2012年にミャンマー・少数民族を支援するNPO法人PEACEを発足し、日本語教育事業、ミャンマー語教育事業等を運営。難民連携委員会では学生団体J-FUNユースと連携し、在日難民二世の子どもへの学習支援教室を運営。2012年から新宿区多文化共生まちづくり会議の委員。

・**新田一福 (トラン・ゴック・フック、ベトナム出身)**

: (株)メトラン代表取締役会長、在日ベトナム人協会会長

1968年に留学生として来日。東海大学工学部工業化学科卒業。医療機器製造会社泉工医科工業(株)を経て、1984年に(株)メトランを創業し、未熟児用HFO人工呼吸器ハミングバードなど人工呼吸器の開発に取り組む。2018年に「旭日単光賞」授与。2018年に一般社団法人在日ベトナム人を設立、理事長に就任。内閣官房アジア健康構想ベトナム部会長。

・**レイ ベントウーラ (Rey Ventura、フィリピン出身)**

: ジャーナリスト、映像作家

1962年生まれ。フィリピン・イサベル州出身。アジアプレス・インターナショナル所属。ケゾン市のTrinity Collegeにて政治学を修了し、1987年に日本に留学。学生ビザの失効後も日本に残り、横浜・寿街で日雇い労働者として一年間過ごした経験を「Underground in Japan」(1992年、イギリス)として出版(日本語・フランス語訳も出版)。「Into the Country of Standing Men」(2007年、Ateneo University Press)で Global Filipino Literary Award for Non-Fictionを受賞。現在は、妻子とともに横浜に暮らし、ジャーナリスト及び映像作家として取材・執筆活動を行っている。